

## 平成 27 年度 第 3 回庄原市総合教育会議 会議録

1. 日 時 平成 28 年 3 月 11 日 (金) 午後 4 時 00 分開会

2. 場 所 庄原市役所本庁 5 階 第 3 委員会室

3. 出席者

### 【構成員】

木山耕三市長 牧原明人教育長 末信丈夫教育委員  
谷壯一郎教育委員 寺西玉実教育委員 中山智恵子教育委員

### 【事務局】

兼森博夫企画課長 山田明彦教育総務課長  
中重秋登教育指導課長 赤堀幹義生涯学習課長  
ほか担当職員 (3 名)

### 【議事進行】

木山耕三市長

4. 欠席者 なし

5. 傍聴人 なし

6. 開 会

7. 説明事項

(1) 庄原市教育大綱 (庄原市教育振興基本計画) について

事務局は、配布資料に基づき、庄原市教育大綱 (庄原市教育振興基本計画) について説明を行い、教育大綱に位置づけることについて了承を得た。

8. その他意見交換事項

(1) 中学生の進路状況等について

事務局は、配布資料に基づき、中学生の進路状況等について説明を行った。

(木山市長)

3 年間の学校活性化地域協議会は平成 29・30・31 年度になるのか。

(山田教育総務課長)

学校活性化地域協議会を立ち上げて、活性化策に取り組むのが平成 26 年・27 年・28 年度の 3 年間で、その後平成 29 年度以降、2 年連続して 80 人の生徒数が確保できなかった場合に、①近隣の県立高校のキャンパス校となる②特定の中学校との緊密な連携による一体的な学校運営を行い、中高連携と呼ぶ中高学年コースの位置付けをする③市立校として存続を含め統廃合をするという 3 つのパターンを学校活性化地域協議会の中で協議し、地域的条件なども考慮して取り組むことになる。

(寺西教育委員)

西城紫水高校の平成 26 年度の卒業生 11 名のうちで、西城中学校出身者は 1 名ということであったが、東城中学校から東城高校、庄原中学校から庄原格致高校への進学者数についてもわかれば教えてほしい。

(山田教育総務課長)

平成 26 年度で言うと、庄原中学校から庄原格致高校への進学は 51 名、東城中学校からは卒業生 60 名のうち 32 名が東城高校へ進学している。

(中山教育委員)

今年度の具体的な状況はどうか。

(牧原教育長)

まだ分からないが非常に少ないと聞いている。この人数で行けば西城紫水高校は今後 3 年で 80 人を切っていく状況となる。西城紫水高校活性化地域協議会ではそのことに関して意見や打開策は出ているのか。

(山田教育総務課長)

西城紫水高校は寮があるため、管外からの生徒募集に力を入れられており、今年度から次年度にかけては県外からも生徒募集を行い、地元以外からも生徒を集めるという方針を打ち出している。また、射撃クラブを創設し、特徴を打ち出しながら生徒を集めようとしているほか、寮を活用した取り組みを検討されている。加えて、県立広島大学の学生を講師として招いて学力アップを図ったり、西城市民病院や老人ホームと連携した体験学習を授業に取り入れるなど、魅力ある学校づくりに努めている。

(牧原教育長)

西城町出身の子どもが入学しない理由をしっかりと分析すべきだと思う。色々な声を聞く機会があるが、例えば町中を歩く姿や学校訪問へ行った際の生徒の態度等、印象が良くないと聞く。色々努力しているとは聞いているが、そういった態度が地元でどう受け取られているのかということがあると思う。また、その子達が卒業するときどの方向に進んでいくのが気なるところである。

県立広島大学の講師を呼んで一生懸命育てることもしているが、授業を見に行った感想としては、生徒の態度や授業の内容について、もう少し活気ある授業展開をされるべきだと思った。

(木山市長)

西城紫水高校が商業科から普通科になったのはどのような経緯か。また、一時期は広島大学にも入れるレベルにあったように思うがどうか。

(末信教育委員)

少子化による生徒数の減少により、三次高校も日彰館高校も商業科がなくなっていった。西城紫水高校でも、希望した生徒に対しては、授業以外でも手厚い個別指導を実施し、一時期は実績も上がって定員をオーバーしたこともあったが、例えば野球ができる子は庄原格致高校等へ行くなど、次第に生徒数は減少していった。また、学校の様子が分かるだけに敬遠するということがあったのかもしれない。今では、中学校のときにほとんど学校へ行かなかった生徒が西城紫水高校へ行き、友達関係の中であるいは指導の中で学校へ通えるようになったという話も聞いている。

(木山市長)

東城高校でも、以前に教育問題が表に出て生徒数が減り出したことがあった。

(末信教育委員)

当時の教職員に対しては、県教育委員会が指導や研修を行い、意識改革に取り組んでいった。

私が日彰館高校にいた5年間は、地域と学校がしっかり連携し、子どもを見守り支援するという雰囲気があり、生徒もそうした対応によって変わっていった。その時期には、日彰館高校も定員をオーバーするくらい生徒が集まっていた。今は地元ではなく、三次方面、あるいは庄原以外へという考えがあるのかもしれない。

(木山市長)

東城で聞いた話では、東城高校が良くないので、中学校の先生が生徒や父兄に対し、地元以外の高校を薦めているとのことである。

(中山教育委員)

西城中学校の進路指導に関して聞いた話では、2年前の年であるが、三次高校に行くよう先生が薦めたと聞いている。そのため、庄原格致高校に西城中学校から行く生徒が1人もいなかった。その翌年は西城紫水高校を目指していた生徒が3人ほどいたが、結果的には1人しか入学しておらず、他は庄原格致高校あるいは三次高校へ流れたと聞いている。

平成27年度の生徒23人について、本当は33人いたが、10人程度が退学しており、生徒指導の兼ね合いが難しいのではないかと思う。

(木山市長)

西城紫水高校の生徒は大体どこから来る子どもが多いのか。県外か市外か。

(牧原教育長)

庄原中学校からは6～7人ほどである。

(山田教育総務課長)

遠いところであれば、広島市から来た生徒もいると聞いている。

(牧原教育長)

市外はどれくらいか。例えば西城紫水高校の1年生は24人であるが、その内訳はどうなるのか。

(中重教育指導課長)

平成26年の庄原市内が11人であるため、それを引いた15人が市外ということになる。寮があるため、それを利用する生徒もいる。

(中山教育委員)

生徒指導や進路指導等に影響するひとつの要素であると思う。

(牧原教育長)

中学校からすれば、生徒の希望を叶えてあげたいという思いがあり、この学力であれば庄原格致高校、三次高校に行きなさいという指導を行う。三次高校の卒業生は国公立へ100名以上合格するが、庄原格致高校は20数名である。そうになると、入学後に大学進学をめざすのであれば、三次高校へ行こうかということになる。

(山田教育総務課長)

先ほどの西城紫水高校への入学者について、三次市からは12名で、庄原よりも多い。中学校は十日市中学校・八次中学校・三和中学校などから来ている。

(木山市長)

三次青陵高校には行かないのか。

(牧原教育長)

三次青陵高校も今は良くなっている。地元には塩町中学校があり、三次青陵高校に通うことを想定している地元の子も多いと思う。

(末信教育委員)

東城の話ではないが、ある地域の高校で分校がなくなるときに地元の方が存続させたいから地元へ行かせようという運動をされていた。そのときはいくらかの生徒を確保することができたが、長持ちせず駄目だった。見栄で学校を選んではいずれ失敗するため、生徒や保護者に対して正しい情報を伝え、しっかり頑張ってもらうのが良いのではないかと思う。

(谷教育委員)

学校を残すための活動には確かに限界があり、そうした活動の効果も多少はあるかもしれないが、個人的には経済状況の悪化が影響していると思う。

(木山市長)

社会へ出ても通用する知識や技能を身につけてほしいという指導が学校にあればと思う。学校だけでは対応が難しいものもあるが、学校には情熱を持った指導と我慢強さを持って欲しいと思っている。

(谷教育委員)

自分が本当にやりたいこと、得意なことなどを、今からの時代は流れに任せるのではなく、自らが腐心して取り組まなければいけないのだと思う。あとは私たちの世代が、それだけの意欲を持って何か目標とか打ち込めるものを、提示してあげることができるかということである。

(末信教育委員)

個々の状況をしっかり把握しながら、いかに生徒自身に目標を持たせて進ませるかを考えながら中学校も指導を行っていると思う。以前のように評価点数だけで進学先や進路を決めるような指導はしていないと思う。

(木山市長)

一人の生徒の進路を決めるためにも熱心な指導を行えば、生徒数を増やしていく方向性が見つかるかもしれない。

(寺西教育委員)

高校を卒業して大学や専門学校に進学した子どもたちが地域に帰って来ているかと聞くことがあるが、市外・県外へ出た場合に地元に戻る割合は本当に低くなる。庄原へ帰郷する子どもを増やすために、地域での取り組みを進めながら、将来は地域に帰って来て地域の力になってもらえればいいと思う。そのためには就職できる場所がないといけない。

(木山市長)

意見を交わす場はあるのか。

(事務局)

西城紫水高校は校長や教頭も学校活性化地域協議会へ入って一緒に協議し、県内の同じ境遇の高校と連携したり、平成27年度は東京へ行って西城紫水高校を紹介するなど、学校の存続に向け危機感を持った取り組みをされている。

(木山市長)

先ほどから議論しているように、もう少し学校の校風も見直しながら取り組まなければいけないのではないかと思います。

(事務局)

それはもちろん前提として考えられている。東城高校では福山市から塾の先生を連れて来て特別授業を設けており、西城紫水高校では県立広島大学の学生を使って学力アップを図っている。市からも補助金を出し、そういった活動に使ってもらっている。

(木山市長)

簡単にこうしようということにはならないとは思いますが、西城紫水高校も東城高校もしっかりとした取り組みを進めてもらいたい。先ほども言われたように地元をしっかり愛せるような子どもたちになってもらいたいと思う。

## 9. 閉 会